

C. T. 英語英文学科・3年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

私は2回生の時休学しイギリスの語学学校に留学しました。イギリスで過ごし生活にも慣れた3か月目くらいから、次はイギリスの大学で授業を受けてみたいと思うようになりました。そして、色々方法を探した結果協定留学が最善策だと思い、協定留学を目指しました。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

私はイギリスにもう一度留学したいと考えていたので、IELTS の勉強をしました。協定留学を目指していた時はちょうどイギリスの語学学校に通っている時だったので WRITING と SPEAKING は語学学校の先生に見てもらいアドバイスをもらっていました。LISTENING と READING はとにかく問題をたくさん解きました。また、分からない単語が出てきたときは英英辞典で調べ、単語帳にまとめました。LISTENING は自分の好きな洋楽を歌詞を見ながら聴いたりもしました。

③ 留学決定から出発までの準備期間

英語の勉強は協定留学決定後も続けていました。主に単語を毎日覚えるようにしていました。

私は1 TERM だけの留学だったので特別な留学手続きはいりませんでした。

でも、休暇中ヨーロッパ旅行に行きたいと考えている人は事前にビザを取っておくと再入国する時にスムーズです。私は持っていなかったもので、再入国する時に沢山質問され、15分くらいかかりました。なので、半年留学でも時間があるなら、日本でビザを取っておくことをお勧めします。

④ 現地到着後

空港からは大学が手配してくれたタクシーに乗り大学まで行きました。空港に着いたら事前に大学からもらっていた電話番号に電話するとタクシーの運転手さんに繋がりどこに何時に行けばタクシーが待っているか教えてくれます。空港からは約15分くらいで着きました。

オリエンテーションは着いた次の日にありました。1日かけて大学のシステム、生徒登録をしました。

⑤ 語学研修期間

◆ 語学研修先の施設・環境について

クラスは約15人の少人数で行われました。中国人の生徒がとても多くクラスの半分以上

は中国人でした。なので時々授業中も中国語が飛び交ったりもしました。

◆ 授業内容、課題、試験

授業内容は corruption についてでした。4 週間このテーマで勉強しました。私はあまりこのテーマについて馴染みがなかったので難しいと感じました。しかし、先生は質問すると丁寧に教えてくれ、授業の進むペースもそんなに早くはありません。自分の corruption についての知識について話したり、自分の国ではどんな corruption があるかについて話しました。試験は listening, essay, presentation でした。エッセイは大学の授業で困らないように厳しめに評価していたように感じます。Listening は presentation の動画を見て、問題に答えるという形式でした。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

私が行ったときはちょうど大学では色々なところで工事が行われていました。図書館も新しく出来たばかりでとても綺麗でした。

◆ 履修科目

・ 1 7 5 1 Contemporary Britain: Class, Power and Social Change in the Arts

これは留学生だけがとることのできる授業です。主に、戦後のイギリスの芸術がどのように変化していったのかについて学ぶことが出来ます。絵を分析したり、映画をみて色々な観点から分析したりしました。

・ 1 1 0 6 Shakespeare

これは Shakespeare の作品を 1 週間に 1 つずつ進めていきました。なので、あらかじめ、Shakespeare の作品を知っておくとよいと思います。大まかな内容を学ぶことが出来ますが周りの学生は高校などですでに学んでいる作品ばかりなので、留学生にとっては少し難しいかもしれません。

◆ 授業、レポート、定期試験

・ 1 7 5 1 Contemporary Britain: Class, Power and Social Change in the Arts

留学生ばかりなので先生も少しわかりやすいように授業してくれているように思えました。また、毎週ちょっとした課題が出ます。主に、授業でやったことに関する内容やセミナーで議論することについてです。試験は essay と presentation です。Essay は 2 回提出があります。

・ 1 1 0 6 Shakespeare

2 時間 lecture と 1 時間の seminar があります。Lecture は授業後に先生が録画したものを upload してくれるので分からないところがあっても何回でも聞き直すことが出来ます。

Seminar は、10人くらいで行うのですが、私以外は現地の学生なのでついていくのが大変です。

⑦ クラブ、課外活動、ボランティア活動

Fashion society に入っていました。

Fashion show を企画したりしました。自分たちでテーマを決め、どういうドレスを着てどういうメイクをするかなど話しあって決めました。

⑧ 現地での住まい (語学研修期間、正規科目履修期間) について

寮でした。Runnymede という寮でした。私は自分専用のトイレとバスが欲しかったのでそこにしました。とても綺麗とは言えませんが、GYM も近く住みやすかったです。ご飯は自炊していました。

⑨ 長期休暇の過ごし方

旅行しました。留学前からヨーロッパ旅行したいと考えていたのでドイツ、ベルギー、オーストリアを旅行しました。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

特に何もしていません。私は、留学を思い切り楽しみたいと考えたので、あまり就活については考えず、留学生活 1 日 1 日を楽しみました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

国際交流はとても楽しかったです。色々な国の人たちと話すことによって、自分には今まで浮かばなかったような意見を聞くこともできてとても楽しかったです。あとは、休暇中のヨーロッパ旅行は思い出に残っています。電車で違う国に行けるというのは少し不思議な感じがしました。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

辛かったのは、正規授業を理解するのが難しかったことです。Contemporary Britain は留学生用ということもあり、多少理解しやすいものとなっていました。Shakespeare の授業は現地の学生の中で勉強するということもあり、1 回 lecture を聞いただけでは理解できなかったので何回も upload された lecture を聞き直しました。また、セミナーでは現地の学生が意見を交換する場であり、学生はそれぞれ話し方、話すスピードが違うので言うことを理解するのに苦勞しました。さらに、現地の学生は高校から Shakespeare について学んでいるので、知識量の違いには苦勞しました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

特にはありませんが、強いていうなら、問題の対処が遅いところとキッチンの使い方の違いです。大学も何か問題が起こってすぐに対処して欲しく相談しに行っても、対応が日本に比べて少し遅かったりします。また、共同のキッチンだったのですが、キッチンに使ったお皿などを何日も洗わず置いているが学生が多かったので、少し衛生的によくなく戸惑いました。

あと、大学内に night club、gym などがあること、大学内のコンビニにお酒が売っていることにはびっくりしました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

Royal Holloway University の良いところは24時間図書館が開いているという点です。なので、試験前は多くの学生が夜遅くまで勉強していました。また、Royal Holloway University 内にはコンビニ、night club もあり、大学内だけで生活出来ます。

悪かった点は、とても田舎に Royal Holloway があるということです。Tesco に行くのも歩いて20分かかり、town centre に行ってもそんなに大きくなく、洋服などを買うには London に出なければいけませんでした。また、London に出るにしても最寄りの駅まで徒歩で15分かかるので少し不便でした。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

化粧品、スキンケア用品、パソコン

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

留学前と留学後で Listening、writing skill は上がったかなと感じます。多分 lecture で listening skill、essay を書く機会が多かったので writing skill が上がったのかなと思います。あとは色々な国に対する見方が変わりました。その国の人と接することによって、今まで自分の持っていたその国のイメージとは違うものであることが分かったりしました。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

私は留学して本当に良かったと思っています。たくさんの人に出会うことが出来、充実した生活を送ることが出来ました。留学を決心するには大きな勇気がいると思います。また、留学しているときも自分の思っていた留學生活とは違ったり、勉強になかなかついていけなかったり、文化の違いに悩んだりとたくさんの壁にぶち当たると思います。しかし、私はそのような辛い体験、苦勞したことは絶対に将来の自分のためになると思います。挫けず頑張ることで成長して帰って帰ることが出来ます。日本では決して経験出来ないような体験も出来ます。ぜひ、頑張ってください。

IV. 将来の目標

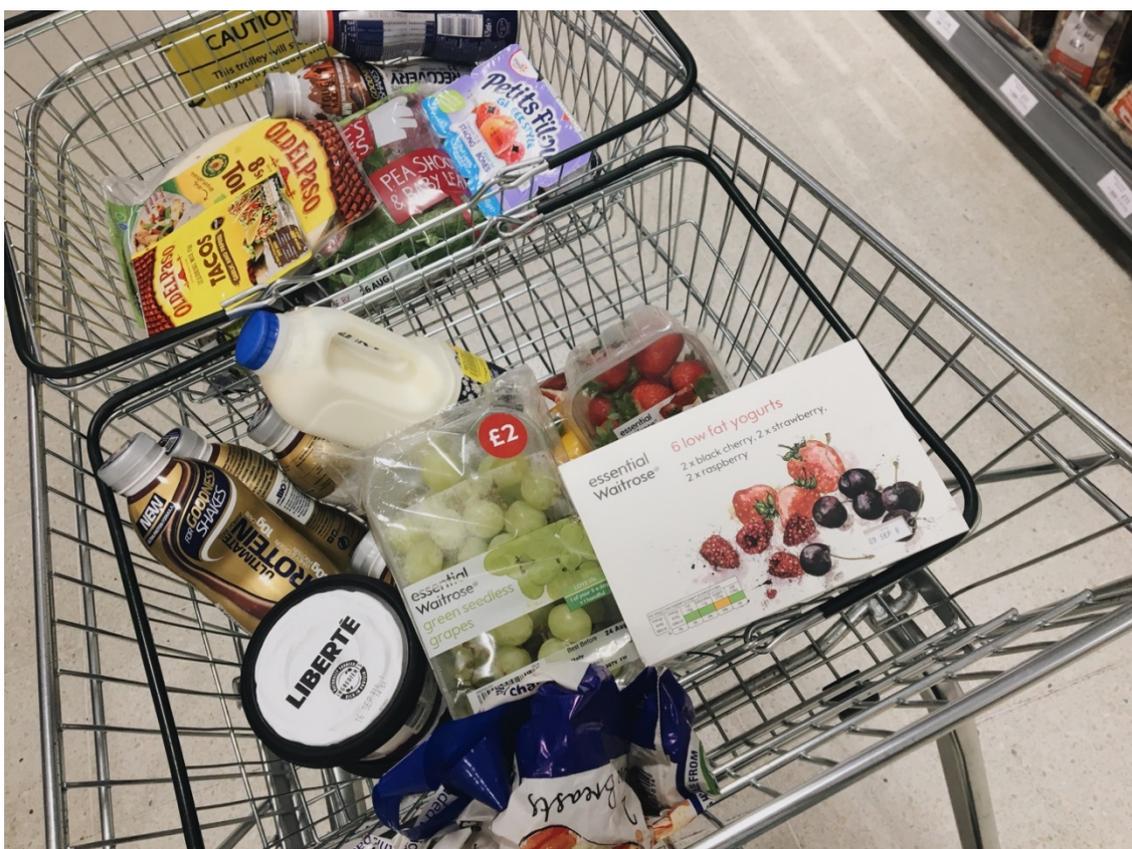
① 今後の進路、将来の目標・夢

英語を使い、色々な国の人と関わることのできる仕事に就きたいと考えています。どういう形であれ、イギリスにもう一度戻りたいです。

V. 写真



これは、大学の寮です。私はここに住んではいなかったのですが、この中に食堂や教室、小さな pub もあったのでよく利用していました。初めてこの建物を見た時は、大学内にこんな建物があるなんて、ととても感動しました。



大きなスーパーまで行くのには少し時間がかかるので1週間分の自炊の食料を友達と一気に買うようにしていました。



これは、代表的なイギリス料理です。ローストチキンとヨークシャープディングとグレービーソースがかかっています。量はとても多いですが、とても美味しかったです。



これは、ヨーロッパ旅行の時のものです。街がとても綺麗でたくさんの写真を撮りました。とても良い思い出になりました。